事例研究
生き残りの極意

No.31

醍醐倉庫株式会社

インターネットの発達により、モノの流れは劇的に変わりましたが、いつの時代も在庫管理が重要であることに変わりはありません。
今回ご紹介する企業は、倉庫業を物流業へと発展させて、流通加工の面から経営をバックアップ、特に、中堅・中小企業の物流コストの削減を図り、煩雑な発送手続きを一手に引き受けることで、業績向上をサポートしています。
中小企業の物流パートナーを目指し、また、地域に密着することで、地域に貢献する企業からは、今後の新たな可能性を感じます。

売上35%減からのスタート

東京都大田区に本社を構える醍醐倉庫株式会社は、販売業者、通販会社の味方として流通加工業務を請け負っています。

醍醐倉庫の歴史は戦前まで遡ります。創業当時の醍醐倉庫は、東京でも有数の規模を誇る炭問屋。自社の商品である炭を倉庫に預け保管してもらっていました。

そこに新たなビジネスチャンスを見出し、自らも倉庫業を生業にすることにしたのです。この事業方針の転換は見事に当たりました。大田区には、多くの大企業が拠点を置いていることもあって、商品を在庫として保管する倉庫が必要とされていたのです。

こうして醍醐倉庫は、地場の企業と密接に結びついて倉庫業を展開し事業拡大を図りますが、ある時、予想もしないことが起こります。売上げの35%を占めていた地場の大企業が突然、物流拠点を移動したのです。このことにより、その企業の商品は倉庫から無くなってしまいました。

会社の存続を左右するこの大事件が、その後の醍醐倉庫の事業展開に大きな影響を与えることとなります。

代表取締役社長 醍醐 正明氏

流通加工業への転身

醍醐倉庫の現社長、醍醐正明さんは、入社間もなくして、大企業の物流拠点の再編による売上げの大幅減を経験し、大企業だけを相手とするビジネスモデルの危うさを肌で感じました。

そして、大企業との取引を継続しつつも、常にリスクを分散しながら事業を行うことの必要性を感じ、単に商品を保管するだけの倉庫業を進化させるべく新しい道を模索します。

コンサルティング会社に勤務した経験を活かして業務改善を図るべく、醍醐社長は社内で様々な施策を提案しますが、業界特有の保守的な考え方を変えることは難しく、社員にはなかなか受け入れられません。

そんな中、海外から輸入した商品を日本国内で販売する会社の在庫管理から出荷までを、一手に引き受ける仕事を受注することに成功します。

東南アジアから輸入された商品の検品、保管に伴う商品管理、包装から出荷までのすべてをトータルサポートする仕事です。当初、社員からは非難の声も上がったと言います。

しかしながら、煩雑な商品管理を醍醐倉庫に任せたおかげで、販売に特化することができた輸入企業は、飛躍的に業績を伸ばすことに成功、会社の規模を急速に拡大し急成長を遂げたのです。

倉庫内で箱詰め作業も行います。

醍醐倉庫株式会社
設立：昭和33年11月26日
資本金：5,000万円
代表者：醍醐 正明
従業員：90名
所在地：〒146-0081　東京都大田区仲池上1-30-3
TEL：03-3752-8888（代表）
URL：http://www.daigo-wh.co.jp/warehouse/index.html

「自分達だけでは、輸入販売をスムーズに行うことはできなかった」という輸入企業からの言葉を聞いて、醍醐社長はこれまで試行錯誤してきたことが無駄ではなかったと感じます。こうして醍醐社長が目指す流通加工業務が形となって動き始めたのです。

中堅・中小企業の物流をサポート

「弊社のお客様は、うちと同じような中小企業です。中小企業には、一つの成功をきっかけに急成長できる魅力があります。弊社も中小企業だからこその強みである身軽さを活かして、中小企業を物流の面から支えることができればと考えています。そのためには流通加工業務のブラッシュ・アップが必要不可欠です。出荷商品の事故率の低下を図るため、これまで以上に様々な工夫を続ける必要があると思います」このように語る醍醐社長は、物流サポート業を強化するためのチャレンジを続けています。

来年3月には新しい営業所を羽田空港の近くに設け、輸出入のサポート業務をさらに強化する予定です。

「中小企業には時代の流れを見据えて、変わり続けることが求められていますし、時代に対応し、変わることが出来なければ成長し続けることはできないと思います」醍醐社長のこの言葉には、苦境を乗り越えて会社を盛り立ててきた重みが感じられます。

地域に根付いた会社としての取組み

いま醍醐倉庫が業務同様、取り組んでいることに地域社会への貢献があります。

倉庫を開放して在庫商品を販売するバザールは、毎年大盛況で、既に12回も開催されています。また、地元の中学生に、実際に醍醐倉庫で職場を体験してもらう取組みも行っています。醍醐社長が青年部の会長を務める法人会では、小中学生に租税教室も行っています。

大田区にある本社倉庫

「大田区というこの場所で事業を継続することができているのは、地域の方々に支えられているからであり、実際、多くの地元の方々に醍醐倉庫で働いてもらっています。地域のみなさんと一緒に、地域に根付いた会社として、これからも中堅・中小企業の経営を物流の面からバックアップしていきたい」と話す醍醐社長。

地域に根付いて中小企業の物流をサポートする醍醐倉庫に期待を寄せる企業は、今後益々増加していきそうです。